

002 調査位置図（地形図・液状化マップ）の作成方法

◆ 重ねるハザードマップを用いる（ <https://disaportal.gsi.go.jp/> ）

【 地形図_作成手順 】

① 調査地住所を入力し、検索

一般の地図と同様で「地番」入力は近くまでしかいかないので、注意してください。



② 余計なものは削除

マップに色付けされてしまい、この後の作業はしづらくなるので邪魔なものは削除してください。



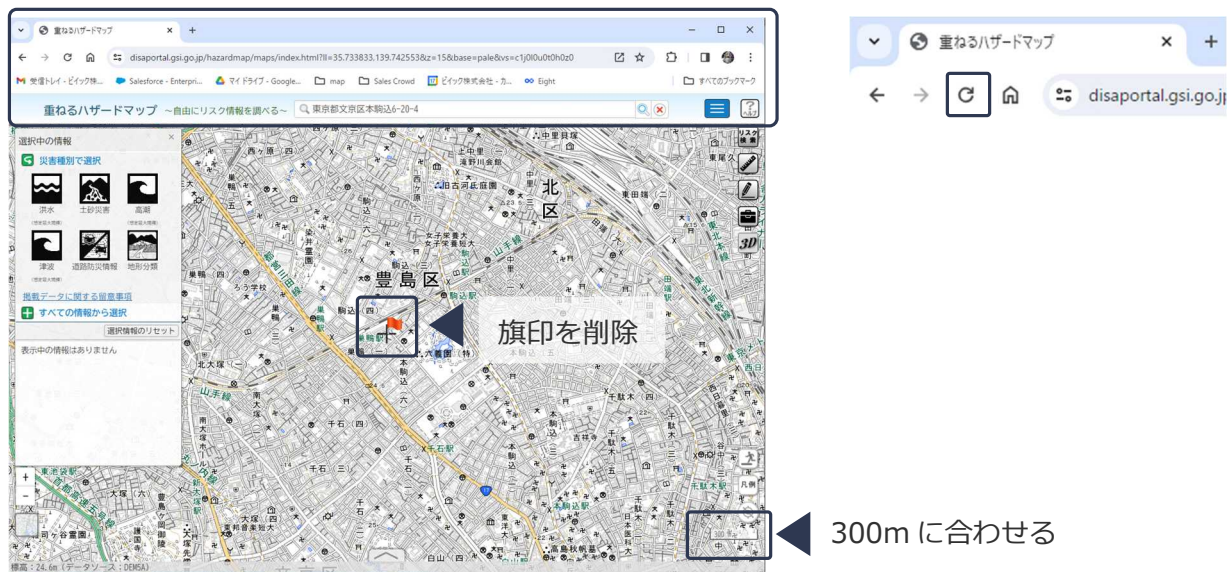
③ 検索結果より、画面を拡大させる

『+』 が検索した位置

- 画面左下の + -
- マウス等により左下の縮尺を 300m スケールに変更

フラグ（旗印）を消す方法_画面をリロード（更新）で消える

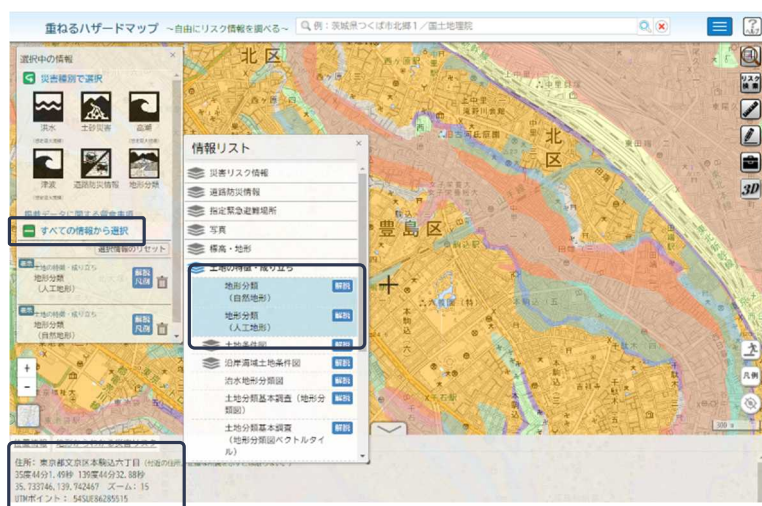
画面左上にある【🔄】をクリック赤い旗は消え、検索した位置が表示されます。



④ 微地形区分を表示させる

- 1.すべての情報から選択
- 2.土地の特徴・成り立ち
- 3.地形分類（自然地形）
- 4.地形分類（人口地形）

を、順にクリックし、表示をさせてください。



位置情報より標高を確認


画面左下の位置情報より、標高を確認できます。

[+] の位置をずらすことで周囲の高低差が確認できます。

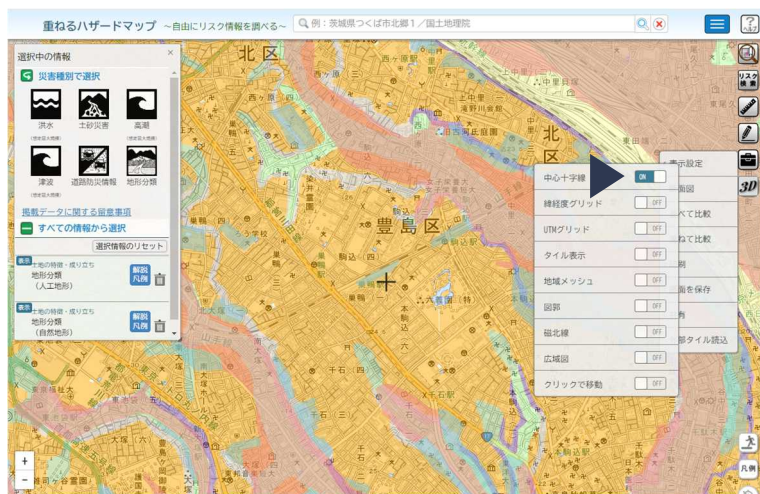
- 調査前の事前準備
- 調査地周辺の傾斜状況の確認

などに利用ください。


⑤ 中心位置 + を削除方法

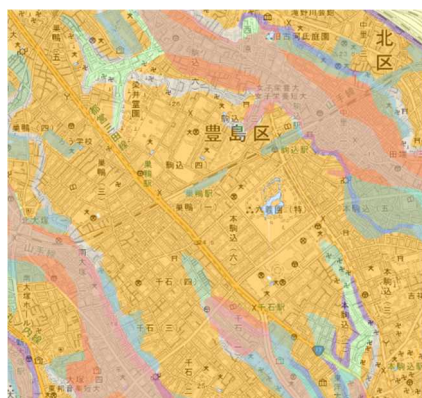
1. 
2. 表示設定
3. 中心十字線
4. OFF

を順にクリックすることで+が消えます。

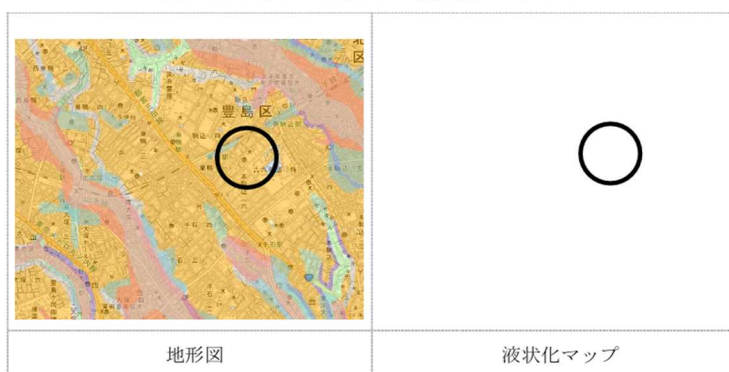


⑥ 予定地付近の画面をキャプチャーし、地形図を完成させる

Windows10 以降の PC であれば、プリントスクリーン（Prt Sc）または、 + Shift + s を同時押しすると画面キャプチャーができます。



調査位置図（地形図・液状化マップ）



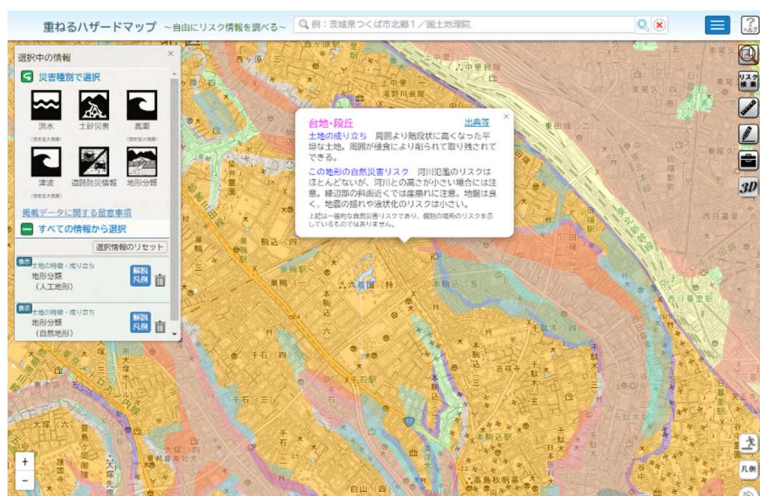
引用：ハザードマップポータルサイト

調査報告書へ反映

⑦ 調査地や調べたい場所と同じ色をクリックし、微地形区分を確認する

「台地・段丘」のように地形が表示されます。

その結果を現場メモに反映させてください。

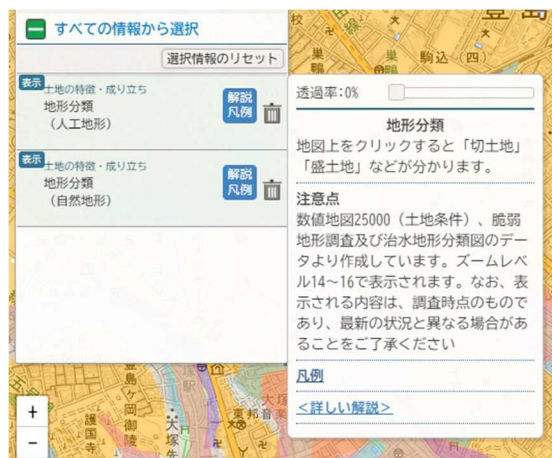


微地形区分において詳細に情報を知りたい場合

1.解説

2.凡例

を順にクリックすると国土地理院のサイトで確認できます。



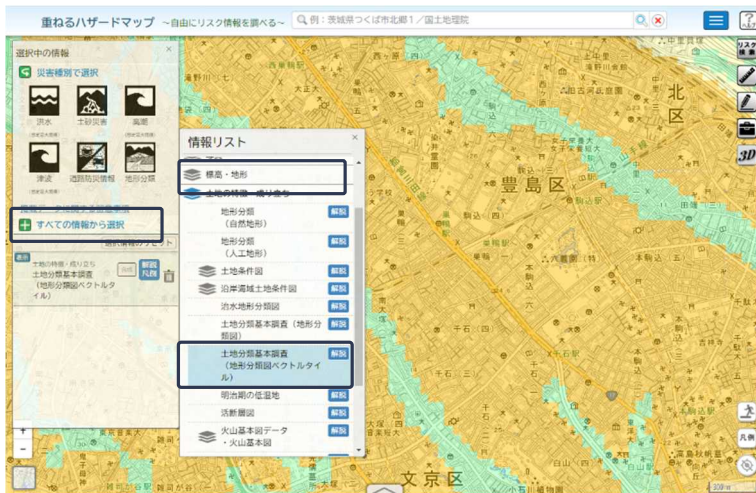
配色	ペクトル 【地形分類】	土地条件団 【数値地図25000(土地条件)】	治水地形分類団(更新版)	属性コード (code)
山地	山地 山地 火砕丘 溶岩円頂丘 火口 溶岩流地形	山地科群等/斜面(山地)	山地	10101 11201 11202 11203 11204 1010101
崖・段丘崖	崖/壁岩 断崖地/露岩	崖/壁岩	崖(段丘崖)	10202 10204 2010201
地すべり	地すべり(崩落崖)/地すべり(崩壊部) 地すべり(移動体)/地すべり(増殖部)	地すべり(崩落崖)/地すべり(崩壊部) 地すべり(移動体)/地すべり(増殖部)		10205 10206
台地・段丘	高台地 上位面 中位面 下位面 更新世段丘/低位面 台地・段丘 対峙断崖段丘 河川谷地 岩石谷地 溶岩谷地 更新世段丘 台地・段丘状の地形	高台地 上位面 中位面 下位面 更新世段丘/低位面 台地・段丘 対峙断崖段丘 河川谷地 岩石谷地 溶岩谷地 更新世段丘 台地・段丘状の地形	段丘面	10301 10302 10303 10304 10305 10306 10307 10308 10310 10312 10314 10508 2010101

⑧ 新版がない地域は、旧版を利用し確認する

概ね新版で全国は網羅出来ていると思われます。

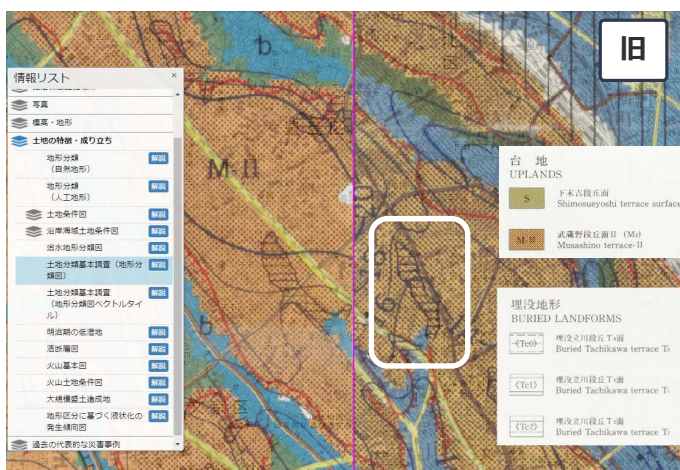
しかし、新版での利用が出来ない地域のみ旧版を用いて地形図を作成してください。

地形図の作成方法は、前述と同様となります。



旧版=土地分類基本調査（地形分類図）の注意点

地形の見誤りによる事故も起きているので、確認には十分に注意をしてください。



谷が埋まっているのか台地となっている



谷地・浅い谷と表現されている

【液状化マップ_作成手順】

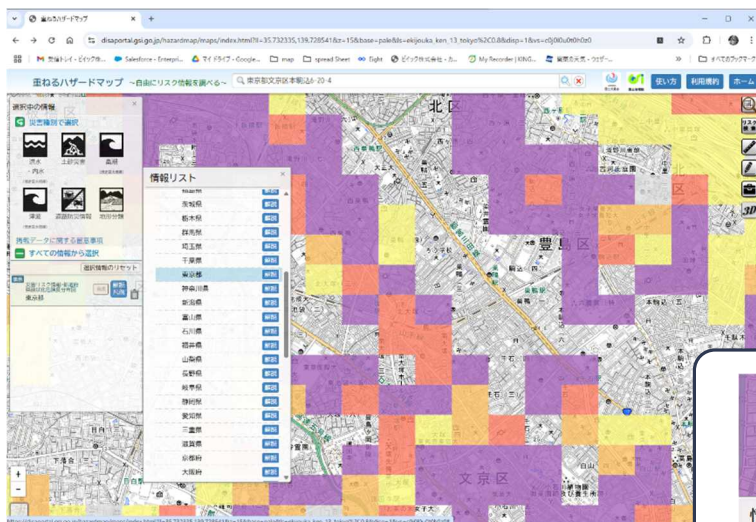
- ① 地形図情報を調べた後に地域の液状化情報を確認する
- ② 災害リスク情報をクリック
- ③ 都道府県液状化分布図をクリック



④ 調べたい都道府県をクリック

調査地付近の液状化の可能性を確認してください。

解説をクリックすると、凡例がでてくるので報告書に反映させてください。



東京都液状化危険度分布図

東京都が想定している複数の地震のうち、都心南部直下地震の地震発生時における都内の液状化危険度を示した分布図

情報リスト

北海道	解説
茨城県	解説
栃木県	解説
群馬県	解説
埼玉県	解説
千葉県	解説
東京都	解説
神奈川県	解説
新潟県	解説
富山県	解説
石川県	解説
福井県	解説
山梨県	解説
長野県	解説

凡例


PL値 10以上
PL値 7～10
PL値 5～7
PL値 0～5
PL値 0

注意点

この分布図は、東京都内を250mメッシュに区分し、PL値（液状化指数）により液状化危険度を示したものです。液状化危険度が低い地域についても、池・川・水田等を埋め立てた場所などは液状化危険度が高くなる場合がありますので注意が必要となります。なお、この分布図は、公表資料をもとに国土交通省にて整備したものととなりますが、液状化の危険度区分が不明な箇所については黒塗りで示しています。

（「首都直下地震等による東京の被害想定」（令和4年5月）東京都防災会議より）

⑤ 予定地付近の画面をキャプチャーし、液状化マップを完成させる

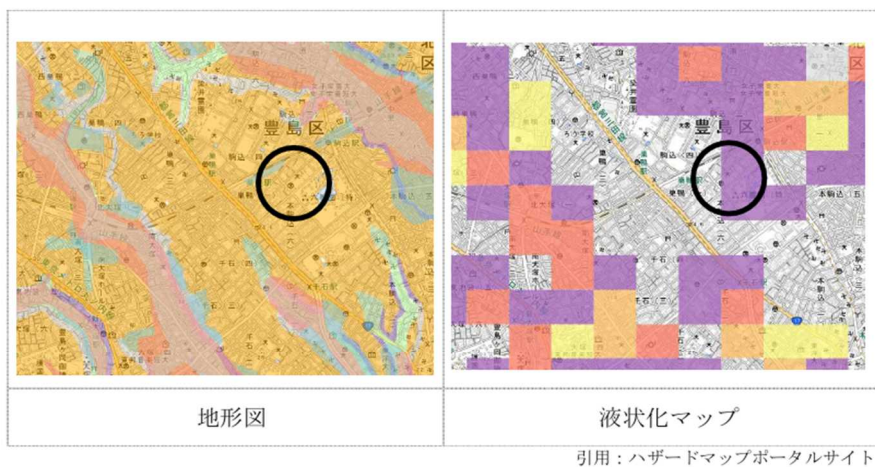
同様に Windows10 以降の PC であれば、プリントスクリーン（Prt Sc）または、 + Shift + s を同時押しすると画面キャプチャーができます。

調査位置図（地形図・液状化マップ）



⑥ 報告書をまとめ、調査位置図（地形図・液状化マップ）を完成させる

調査位置図（地形図・液状化マップ）



調査地情報	調査地住所	東京都文京区本駒込 6-20-4
	微地形区分 / 表層地質 / 地質年代	台地 / ローム / 洪積世
	液状化の可能性	液状化の可能性が高い地域
	液状化の対策（推奨）	基礎に十分な剛性と強度をもたせる（べた基礎、布基礎）

- ▶ 報告書マクロ「周辺状況表作成」より、
- ▶ 現場メモから読み込み
- ▶ 凡例を確認し、手入力

⑦ 液状化の対策について

調査地が液状化地域に該当する場合、建築確認審査機関より液状化をした際の対策について疑義が入る場合があります。

今回の報告書の改定より、疑義が入った際の対応策を記載していますので、疑義や質問があった際に報告書に記載している旨をお伝えてください。

【液状化の対策について】

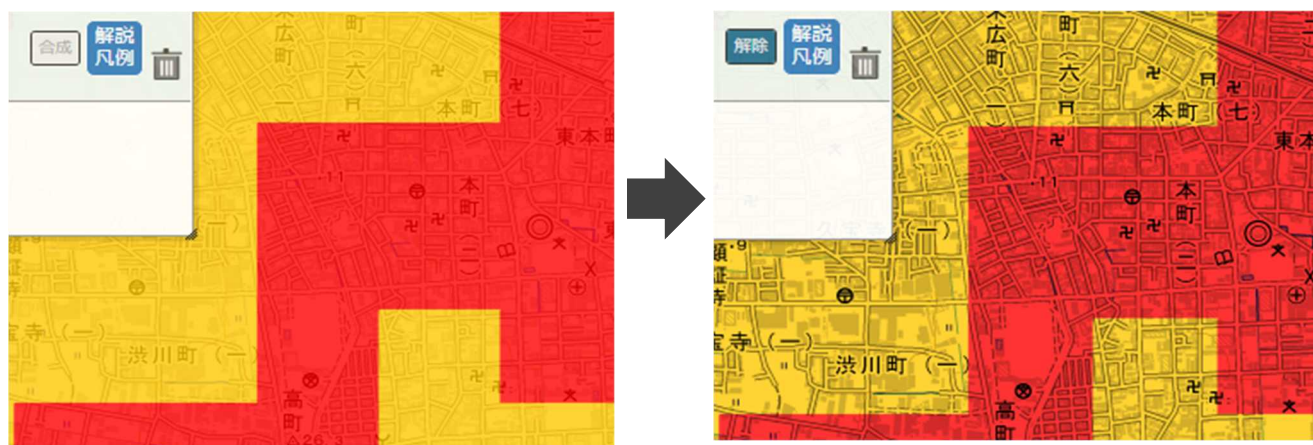
- ・東京都都市整備局発行の「液状化による建築被害に備えるための手引き」に液状化対策について以下の記載があります。
建築物の基礎で対応する工法：直接基礎（ベタ基礎）、小口径杭工法
地盤を改良して対応する工法：深層混合処理工法、浅層混合処理工法、注入工法
地盤を囲い込み対応する工法：格子状地盤改良工法、壁状締切工法
- ・日本建築学会発行の「建物基礎構造設計指針」には、木造家屋などで地盤改良を行えない場合、基礎に十分な剛性と強度をもたせることで、液状化後の上部構造の被害を軽減されることが示されています。さらに、上部構造の傾斜が生じた際は、基礎に剛性が大きいほうがジャッキアップなどで建物の修復に有利であるとされています。

[補足]

「解析・凡例」の左にある『合成』をクリックすることで、地図が見やすくなります。

以前に比べて、液状化マップが小さくなったため、発注者など見る側の立場になっての作成も必要かと思われます。

尚、合成については、必須ではありません。顧客満足に繋げるための対策となります。



合成をクリックすることで地図が見やすくなる